令和６年４月１日

令和６年度　学校教育目標

笑顔につつまれ　じっくり学ぶ学校

～「あったか言葉」と「じっくり聞く・考える・書く・話す授業」を通して～

佐世保市立赤崎小学校
校長　　藪　英彦

はじめに

「笑顔につつまれ　じっくり学ぶ学校」とは、教職員・保護者・地域の方　等、学校に集うたくさんの人たちの笑顔につつまれ、子どもたちがじっくり学ぶ学校です。「赤崎小は、あたたかい先生・保護者・地域の方につつまれ、子どもたちがじっくり学んでいる」とだれもが思える学校です。

令和６年度、赤崎小学校はコミュニティ・スクールをスタートします。ふるさとに生きる人々と連携・協働する教育活動（地域学校協働活動）を通して、子どもたちがたくさんの笑顔につつまれ、じっくり学んでいる学校を創りましょう。「あったか言葉」でたくさんの人の笑顔につつまれ、「じっくり聞く・考える・書く・話す授業」でじっくり学ぶ、「笑顔につつまれ　じっくり学ぶ学校」を子どもたち・保護者・地域と共に創りましょう。

１　子どもたちが明日も来たくなる　笑顔につつまれた学校づくり

「３つの『あ』　３つの『は』

（１）３つの『あ』とは、「あいさつ・ありがとう・あとしまつ（そうじ）」

「明日も来たくなる　笑顔につつまれた学校」にするには、あたたかい「あいさつ・ありがとう」が大切です。相手に合わせて、相手に喜んでもらえる、声の大きさ・表情・所作での「あいさつ・ありがとう」が、「あたたかい　あいさつ・ありがとう」です。「あとしまつ（そうじ）」の合言葉は、「だまって隅々まで」です。次に使う人が笑顔につつまれる「あとしまつ（そうじ）」のできる子どもを育てましょう。

（２）３つの『は』とは「ハイの返事・はきものそろえ・はしらない」

「ハイ」の返事は、相手の話をしっかり聞いている合図です。はきものがそろい、廊下をはしらない学校は、だれもが落ち着いて安心・安全に生活できる、明日も来たくなる楽しい学校です。

それぞれの立場で、それぞれの場所で、子どもたちを鍛えていきましょう。そして、自分の見方・考え方で、相手の気持ちをじっくり考えて行動できる子どもを育てていきましょう。

２　保護者に信頼される　じっくり学ぶ学校づくり

じっくり聞く・考える・書く・話す授業（取組）

（１）まず規律（ビシッ）を身につける。

授業（取組）において、「はじめ」と「おわり」はビシッとした礼節のある号令、授業中は規律ある話し方・聞き方・返事（ハイ）ができる子ども（学級）づくりに、根気強く取り組みましょう。

（２）じっくり聞く・考える・書く（シーン）じっくり話す（ガヤガヤ）がじっくり学ぶ姿です。

めあてを工夫し、子どもたちがじっくり聞く・考える・書きたくなる（シーン）、じっくり話したくなる（ガヤガヤ）授業（取組）をめざしましょう。その繰り返しが、確かな学力につながります。

（３）家庭学習の定着は学力向上の土台です。

学力向上するために家庭学習の定着は必要です。系統的・効果的・授業と連動した家庭学習となるよう、家庭学習の内容や確認の仕方を同学年で共有してください。子どもたちが主体的に家庭学習に取り組み保護者があたたかく支援する姿が、保護者に信頼されるじっくり学ぶ学校の姿です。

３　地域に愛される　開かれた学校づくり

１年間を３期に分け、目標をもたせ、「できた」「わかった」「成長した」と実感させる。（キャリア教育）

〇１学期：にこにこ（安心）期間
・「学校が楽しい」と思える支持的風土のある学級づくり、仲間づくり
・基本的な生活習慣、学習規律、家庭学習の定着

〇２学期：じっくり（充実）期間
・授業の充実（ビシッ・シーン・ガヤガヤ・ビシッ）
・ふるさとに生きる人々と連携・協働する教育活動（地域学校協働活動）の充実

〇３学期：かがやき（達成・感謝）期間
・１年間の学びの価値づけ（学習発表会　等）で「みんなで、できた」の共感
・１年間の学びを支えてくださった方への感謝「みんなに、ありがとう」を伝える

◎子どもたちの１年間の学びを発信し、価値づけ・可視化で自尊感情を高めていく。
※学校だより毎月２回発行、掲示、ホームページの充実

４　子どもと職員がしっかり向き合える　ゆとりある学校づくり

わたしたち（教職員）は、大切な子どもの手本です

（１）「笑顔」を大切に生きる

「笑顔」は子どもたちだけでなく、我々教職員にとっても大切にしたい言葉です。大人として笑顔で働く姿が、大切な子どもの手本となります。「働き方改革」は「生き方改革」です。笑顔で働くためには、服務規律の遵守と同時に、余暇の充実やリフレッシュも大切です。よく働き、よく遊び、よく食べ、よく眠ることが大切です。

そして、「笑顔につつまれた　あたたかい生き方」で人生を楽しみ、「子どもと職員がしっかり向き合える　ゆとりある学校」をめざしていきましょう。

（２）気づき、支え合える、あたたかいつながりのある職場をつくる。

縁あって、これから１年間、共に働くことになった大切な仲間です。３月に、「笑顔で元気で楽しい１年だった」と全員で喜びを分かち合えるような１年にしていきましょう。

そのために、互いに気づき、支え合い、笑顔につつまれたあたたかい職場をつくりましょう。自分のことも、仲間のことも、子どものことも気づきはすぐに伝え合ってください。一人では無理でも、みんなでならできることがあります。どうせやるなら、みんなで支え合って楽しくやりましょう。

それが、「笑顔につつまれた　あたたかい職場（学校）」です。

～「みんなで、できた」「みんなに、ありがとう」～

「みんなで、できた」「みんなに、ありがとう」は、３学期：かがやき（達成・感謝）期間の合言葉です。子どもたちは１年間にたくさんの取組を行います。その１つ１つを「できた」で終わるか「できなかった」で終わるかはとても重要です。「できた」を重ねると、「自信」や「勇気」が生まれます。自分が好きになります。人から信頼される人になります。

しかし、「できた」を重ねることは簡単ではありません。「できた」を重ねるために３つのことが大切です。

１つめは、「続ける」です。決めたことは必ず続けていけばある程度のことはできます。
２つめは、「仲間」です。一人では無理でも仲間や教師の励ましがあればできることもあります。そして仲間と一緒に取り組めば、「みんなでできた」というすてきな思い出ができます。
３つめは、「工夫」です。自分にあった目標や内容、取り組み方に変えたり、目標を達成した人の取り組み方をまねたりする工夫があります。

子どもたちが「続ける」「仲間」「工夫」で、たくさんの「できた」を積み重ね、「自信」「勇気」「自尊感情」を高めていける「笑顔につつまれ　じっくり学ぶ学校」を、「あったか言葉」「じっくり聞く・考える・書く・話す授業（取組）」を通して共に創っていきましょう。